

2014.06.03

コンバッティヴィティ・ジャージ、敢闘賞とでも翻訳するのでしょうか？日本では多く聞かないジャージです。ツアー・オブ・オマーンの本部で初めて見ました。ツールやジロのような本格的な山岳が少ないから、ボーナスタイムつきのスプリント通過順と山岳賞相当の通過順に応じて、ポイントを与えて、累計ポイントが最も多い選手が着用するジャージとテクニカルガイドにはありました。

仮に、逃げ集団に乗っても、スプリンターチームが牽引すると、ゴール手前であえなく吸収されてしまう。けれども、毎日、ほとんど毎日逃げ続けた選手だけが挑戦できるジャージになります。そんなことできるのでしょうか。シーズン前半とはいえ平均150kmのコースで毎日逃げる体力があるのでしょうか。スプリンターチームは8名×複数チームで追い込みます。賞として成立するのでしょうか。のこぎりの様なコースプロフィールのステージの場合、早い時期から集団がずたずたになる場合もあります。のこぎりのようなコースプロフィールならば、逃げる側に多少とも有利だからです、集団で走るのが圧倒的に有利な高速道路を使ったツアー・オブ・オマーンのコースで連日逃げる事が出来る選手がいるのでしょうか。こんな疑問を抱えて、第一ステージに向かいました。

何回かに一回しか逃げ切りが成功しないにしても、果敢に逃げを試みる選手は心を動かすものがあります。ゴールまで後僅かであつたか逃げ切るかという状況は、何回経験してもはらはらどきどきします。一方、「引くな、引くな、集団の後に下がって足を溜めろ」とコーチが指示する競走は、見ていて面白いのでしょうか。団子のまま、何の動きの無いまま平均時速35kmで平地の競走が進んでしまったら、スポンサーは卒倒してしまうでしょうやはり、積極果敢に逃げる選手が出てくるような試合の構造にしなければならないということなのでしょう。

下にステージごとの逃げ集団のゼッケンを記入します。

St.1	1 5 3, 1 5 8, 1 6 3, 1 7 1	ゴール手前3kmで吸収
St.2	1 5 3, 1 6 5, 1 7 5	ゴール手前20kmの丘で吸収
St.3	1 4 7, 1 5 8, 1 6 3, 1 7 7	ゴール手前24kmの丘で吸収
St.4	2 5, 3 3, 5 6, 1 5 8	ゴール手前40kmの頂上スプリント後吸収
St.5	1 5 1, 1 5 3, 1 6 4, 1 7 8	頂上ゴールの坂に入って吸収
St.6	2 4, 5 6, 6 4, 7 5, 1 0 8	60km地点で吸収
	1 0 5, 1 3 3, 1 7 1	ゴール手前1kmで吸収

どんなことに気づきますか。150番台、160番台、170番台の選手が沢山逃げていますね。トップスポーツフランデーレン、バルディアアーニCSF、ユナイティッド・ヘルスケアの3チームです。この3チームはUCIプロコンチネンタルチームの選手です。UCIプロチームが競技規則上限の65%まで参加している試合では格下扱いのチームです。個人総合でまともに戦ったら個人総合の賞金20位の外、スプリント総合でまともに戦ったら、スプリント総合の賞金5位の外が順当と思われるチームです。そんなチームが少しでもメディアに露出する方法は逃げて競走を活性化すること。薄弱なチームでも露出する機会が増えてきます。プロコンチネンタルチームを一生懸命応援しているスポンサーは満足します。そんな選手を作り出すためのジャージなのですね。

ここから、我田引水、自画自賛、夜郎自大です。

このコンバッティヴィティ・ジャージは2days race in 木祖村スプリント賞グリーンツジャージとそっくりだ

と気づきました。正確には、木祖村のスプリント賞が、収斂進化のようにコンバティヴィティ・ジャージと同じものになったのですね。水中で効率的に活動する進化を進めた結果、魚竜とイルカがよく似た形に進化した例が収斂進化の例で挙げられます。

競走を前半から活性化して、大集団を一直棒状にして安全にする。大集団が団子状態でのんびり走らせることはさせない。個人総合成績に関係なく前半から逃げを作って、競走を活性化させたなら、相応の評価がされる。そんな目的で設定しているのが、2days race in 木祖村のスプリント賞グリーンジャージです。ツアー・オブ・オマーンのコンバティヴィティ・ジャージと同じ形同じ目的の収斂進化の結果です。

2days race in 木祖村 2014 ではステージ前半のスプリントでエネルギーを使い尽くしても、完走さえすれば、個人総合成績で6位に相当する賞金を用意していました。ツアー・オブ・オマーンはどのように評価しているのでしょうか。一番分かりやすい評価が賞金額です。下記に賞金概要を記載します。

	ステージ	個人総合	ポイント、新人賞	コンバティヴィティ
1位	3 6 1 5	1 1, 0 0 0	1, 5 0 0	1, 5 0 0ユーロ
2位	1 8 0 5	5, 5 0 0	1, 2 0 0	1, 2 0 0
3位	9 0 5	3, 5 0 0	1, 0 0 0	1, 0 0 0
4位	4 5 5	2, 0 0 0	8 0 0	8 0 0
5位	3 6 5	1, 3 0 0	5 0 0	5 0 0
6位	2 6 9	1, 0 0 0		
7位	2 6 9	8 5 0		
8位	1 8 0	8 0 0		
9位	1 8 0	5 7 0		
10~20位	9 2	3 2 0		

力の限り逃げて、ゴール手前で潰されても、試合日数の半分の日数、逃げを成功させたなら、個人総合5位よりも高い評価を与えていることになります。格下のプロコンチネンタルチームにとって、おそらく取れないであろうゴールスプリントを狙ってステージ成績を狙ったステージ3位よりも高い評価を逃げ選手に与えていることになります。新人賞、ポイント賞と同じ評価です。試合を活性化すること、試合を安全にすることに主催者がどの程度評価をしているか窺い知ることが出来ます。そして結果的に2days race in 木祖村の選手に対する評価、すなわち賞金額の配分はフランス人の配分とよく似たものになっています。なぜか少しだけほっとして、そして、にんまりとしました。来年も、沢山の方の参加をどっさりの賞品を用意して、お待ちしております。

蛇足

最終日コミュニケにはチームごとに獲得した賞金額が記載されていました。個人総合優勝を生み出した TEAM SKY が 1 8, 9 3 2ユーロで1位 ステージ3勝+ポイント賞のロットベリソルが 1 3, 3 9 8ユーロで2位、コンバティヴィティ・ジャージを獲得したトップスポーツフランデーレンは 4, 0 1 4ユーロで10位、同じくらい逃げたバルディアーニ CSF は 3, 1 7 6ユーロで11位でした。ベルキン、アスタナ、ティンコフ、トレックといった UCI プロチームの獲得賞金額を凌いでいました。